# 誘導保育案

## 第九週

### 水族館

汽車をテーマとした砂箱にももう魅力が無くなつたので、今度は別の計畫を立てる。

今でもはつきりと思出すが、この誘導保育案が吾が倉橋主事によつて提唱せられた時、保育實際家は一齊に疑議を持つたものだ、「理論としては誠に結構だが御園の樣に手のある所でなくては、御園の樣に經費の豐かな所でなくては、又御園の樣に一組の幼兒數が少くなくては、さては御園の樣に理解ある父兄でなくては」、と。私共、主事膝下の者でさへも、是等とは異つては居るがこの案の實施によつて起つて來る、或る問題を如何に解決したらよいかと迷つたものだつた。この疑問は私共ばかりではなく、多勢の眞摯なる研究的な實際家も持たれたのであつた。卽ち、この案の實施に當つては、一齊にと云ふ事が殆んどの場合出來ないし、又したくないのが當り前だし。その時に、仕事に携はつてゐない幼兒をどうしよう、たゞうつちやつて置いていゝであらうかと云ふ問題である。私共もよくこの問題を持つて行つて先生に解決して下さいと迫つたものだつた。でも先生はいつも、これに對して(ばかりではなく大抵の質問に對して)暗示的な解決の緒口を一寸仄めかされる程度で、決して簡明直截的な解答を與へて下さらない。之は私共に、自分から考へ樣とする力を與へ樣との深慮からだと思つてゐる。それ以來この疑問が常に胸の中にあつて、折ある每にちよく〳〵頭を擡げる。そして半歲又半歲、いつの間にかおぼろげながらも自分なりの解決が出來てゐた處、去る三月末の及川保姆の「幼稚園保育の實際」と云ふ題の御放送を伺つて、この解決が、はつきりと確信づ

けられた。そして、この問題の解決には之以外の途は無いと今は思つてゐる。解決とは、即ち、その時、その仕事に携はつて居ない幼兒は、危ふくない自由遊びか、然らずんば極く簡單な、幼兒等が一人でも出來る樣な自由畫とか、切紙とかの保育項目を以つて補ふ事、と云ふ事である。こう言つてしまへば、いとも簡單で、どうしてあんなに迷つたかと思ふ位であるが、半歲、一年位は迷つてゐた事はほんとうだ。

思へば及川保姆も熱心なるこの問題の質疑者であられた。仕事の參與にもれてゐる幼兒があつてはならないし、又一人々々の幼兒の仕事の分量に多寡があつてはならないとのお考から、是等の事が一目で判る樣な表まで案出せられた御熱心さであつた。

遂、筆がすべつて思はぬ事に走つてしまつた。この稿を起すに當つて、私は子供等の手で出來た水族館を目に浮べずには居られない。そしてこれが、都會の幼稚園でなく、町の幼稚園で、更にまた村の託兒所ではと考へて見た。ゆくりなくもそこに、乳呑子をおんぶした教育とは緣の遠いお母さんが立つて見てゐる樣子が浮んで來る。このお母さんは、幼稚園でしてゐるこの仕事に對して反對を唱へるであらうかと考へて見る。私にはこのお母さんは、こういふ風にして吾が子を遊ばせ向上させて下さる幼稚園に對して感謝こそすれ、決してこれを惡い事だ、とまでは考へなくとも、無用の事だと思はぬだらうと信ずる。では教育界と言ふと大げさだが、私共の最も厄介視してゐ、なまじインテリーのお母さん、學校を批判し、學校をテストしてゐインテリの、所謂教育に熱心だと言ふお母さんをこの水族館の前に立たせて見る。このお母さんだつて滿腔の讃意と感謝を表はすだらう事は想像に難くない。事實、公私の保育事業に携はつてゐる同志に聞いて見るに、初めの懸念とは違つて、殆んどの親がこういふ計畫に對して悅び感謝して居ると云ふ事である。さもある事と思ふ。今までの幼稚園の樣に、保育項目の羅列ではなく、是等の各項目を一ッのテーマによつて、意味づけ系統づけて行くと云ふ意味合のものがこの案であつて、仕事の分量からしても、ずつと多くなつて居るし、子供によろこばれ理解される統一した意味も

あるのであるから、誰が考へても反對の理由は立たないのである。私の只今受持つてゐる組の經驗で言ふと、時々見に來られる親がある。そして「幼稚園ではいろ〳〵の面白い御趣向がお出來になつて面白うございますね、子供が見に來い、見に來いと申しますので……」と挨拶される。又箱の動物をした時等、いゝ思ひ付きだと面白がつて下さる親御さんもあつたし、人形の家の時等、子供も面白からうけれど親も面白い、今度は何が出來るかと樂しみだ、等と言つて下すつて、朝、子供を送つて見えられて、小一時間程をぬひとり等眺めながら、子供等の絲のつなぎ等を手傳ひながら話して行かれる親御さんもあつた。今となつてはこの案の實施に、疑問、反對を考へられる頭は無くなつたと思ふ。たゞ、不精になつた私共の身體が、どもすると安易を求めて、頭で考へる事を進捗させないで困るのである。と言つてもこの案の實行には、ではそれ程身體的な努力が必要かと言ふと、實はそうではないのである。私等、よくこんな事がある。一つの保育案が終りをつげて、次の案に移らうとする時、あの案は誰さんがなさつたし、この案は誰さんがこないだなさつたばかりだし、それをそのまゝ眞似るのもあまり無能な話だ等とくだらぬ事にこだはつて、暫くの間心の中で何か新味は無いものかとあれこれ物色する。結局、大した新しいものも思ひ浮ばず、結局は前にされた事を繰り返す事になるのではあるが、何とか一通りの理窟がついて納得がいくまでは、心の中で非常につらい、人目にはいかにも閑散な一日々々を過して居る樣に見えるかは知れないけれど、心の中では實につらい思をして居るのである。漸く案が決まつた後のすが〳〵しい事、安心な事、丸で親舟にのつた樣な心安さを感じて、それからは、ひたすらにその案によつて仕事が進められて行くのである。

餘談が餘談を生んであてもなくうろついてしまつた。扨て本題には入らう。

第九週と云へば六月、六月と言へばもう世の人も夏服に變へられて、木々は深綠りに深む頃だ、水の冷さも肌に快い時である。水とゆかりのある水族館、近く來る夏休みに行かうと聞かされて、樂しみにしてゐる海と、緣のある水族館、子供等とぴつたりする好主題であらうと思ふ。海に近

い地方では尙ほの事いゝテーマであらうし、海に遠く、海を見る事等到底も不可能の地方では、繪によつて、又はお話によつて、指導的意味でこれを進めて見るのも一策であらうと思ふ。

端的に水族館と命名してしまつたので、一寸說明をさせて頂かねばならない。水族館と言へば、誰しも同種の魚を一まとめにして一區ぎりの中に入れて置くのを思ふ。之が正しい水族館であらうけれども、幼稚園時代の子供に、例へば、ボラと鮒の差を正しく認識させるばかりでなく尙且つそれを形の上に正確に表現させると言ふ事は、少し細か過ぎもしようし六ヶ敷過ぎる事でもあらうと思ふ。

只海の中のお魚とか、貝とか、子供に親しみのあるものを製作として表現させ、夫をあしらつて海の中の有樣を表はして見る、と言ふ意味合のものと御承知置き願ひ度い。水族館と云はずに何か簡單な呼名は無いものかと思つたのであつたが、遂慣例になれて水族館と命名してしまつた。

扨て、觀念を植ゑ付ける第一順序として、適當の時を見計らつて子供等を自分のまわりに集める。そして、

「皆さんでこゝへ水族館を拵へて、中にみんなでお魚をこしらへて下げませう、海に居るものを魚でも貝でも何でもいゝの、昆布もいゝし、わかめもいゝの」

と云つた工合の話合をして、子供達の知つてゐる魚の名を言はせて黑板へ片假名で書く。カツヲ、ヒラメ、カレイ、タイ、等と書いてる中に、ナマヅ、ドゼウ、と云ふ子があるかも知れない。こんな時、それは海の鹽辛い所に居ないで、川や池に居るものと言つて區別してやる、そして淡水に住むさかなの名等、言はして見たり、言つてやつたりして少し差別して見せる。この板書したものは暫く消さずにこのまゝにして置く。

此間に枠の取付にかゝる。こゝの幼稚園では保育室の壁面と云へばボールドの所なので、いつもボールドへ木の枠をつける。背景を種々に出來るので都合もいゝので、この枠は幼兒に支へてもらつたり、取り寄せてもらつたり、そんな事を手傳つて貰つて、大抵は先生がする事になる。體のいい活動的な幼兒等は釘打つ事等大變に喜ぶので、手傳つて貰へる所があつたら大いに手傳つて貰ふ方がいゝと思ふ。

取付が出來たら、この枠にラシャ紙を貼るとか、塗料で塗るとかして、木の地そのまゝをむき出しにしない方がいゝ。

これの期待效果は

自然界に對する興味、取り立てゝ協同の製作とする事によつて、今まで極く淡くしか持つてゐなかつた興味が、どれだけ强められるかは、こういふ事を實際にして見た方はよくお分りになると思ふ。兎も角も私共の豫期以上のもので、意外と云ふ感じがする。次の效果は

觀察、

手技、

繼續作業時間は四週間位。

## 第十週

魚

畫用紙を與へて子供達の好きな魚を描かせる。何の形だか分らないと思つてゐる間に、鱗がついて、脊鰓がついて、漸くお魚(さかな)だと合點の行く樣な出來ばえ、面白い事である。クレヨンで、それ〴〵色も塗られたら、之を切り拔かせる。先生が一人、一人のを絲をつけて水族館の枠の中へ吊して上げる。絲は目立たない黑い絲を用ひ、頭部と尾と二ケ所につけて吊す方が、重心の關係が樂にいく。この仕事には、觀察用として、魚介類の繪は是非備へて置かねばならぬ。

それから此主題を年少組に試みる場合は、おさかなの切り拔きは、片面だけにして置かうと思ふ。兩面に色を塗らうとする子供もあるかも知れない。それはその希望に任せる。年長組の場合は切り拔いたお魚を型にしてもう一枚切り拔かせ、兩方貼り合せて立體的なお魚にする。此時折角描いた鱗が貼り合せて見たら、體の內側になつてしまふ事がよくある。こうならぬ樣な工夫を年長組なるが故にさせて見るのもよいと思ふ。

## 第十一週
## 第十二週

これ丈では淋しいからもつと澤山拵へませうとか言つて、更に多くの魚を作らせたり、又岩(白模造紙、又はハトロン紙等に著色、中に種々なものを入れて岩らしくする)をあしらつてやつたりすると、拵へたいと云ふものが殖えて來るかも知れない。

こんな風にして愈〻完成させる。自分達丈で見てゐるのも惜しい氣持がしたら、他の組を御案内して見て戴く。

## 唱歌遊戯

### 第九週

唱歌　一回
　復習
遊戯　三回
ものまね（記事參照）
　一回毎にリーダーが代ることによつて、子供達は隨分變つた行動をするので、興味が相當長い時間つゞいて面白い。又そのリーダーになつた子供によつて模倣性の强い子供、創作力の强い子供、といふ樣な方面も種々わかつて面白い結果になる。
お友達（記事參照）
　二人で手をとり、自由にとび廻るこの遊戯を大さう好む。お友達といふ名の樣に、元氣旺盛な男兒も、お友達とあまり交渉出來ない內氣な子供も、皆この可愛いゝ遊戯にひき入れられることによつて何となくお互同志の氣持よさを感じるらしい。

### 第十週

唱歌　二回
進軍（記事參照）
　元氣よく兵隊さんが進軍する時の氣持を出してうたふ。トットトットット……といふところは無理に歌詞ばかりを覺えさせ樣とするとむづかしいので、曲に合はせて何回もラッパの調子を口づさむでゐる中に、覺えられる樣になる。
遊戯　二回
進軍（記事參照）
　勇ましく、そして何となく規律正しいといつた樣なスッキリした氣分を出してしたいものである。はじめの踵、